

## 「情報公開文書」

課題名：早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後出血リスクスコアリングシステムの開発に関する研究

### 1. 研究の対象

2013年11月～2016年10月に当院を含めた下記研究施設で早期胃癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）が施行された方

### 2. 研究目的・方法

早期胃癌に対する低侵襲治療である ESD 施行の際に、4-9%で ESD 後出血を認めるとされています。胃 ESD 後出血のリスク因子として、男性、心疾患（虚血性心疾患）、抗血栓薬、肝硬変、慢性腎疾患、腫瘍径>20mm、切除径>30mm、小彎側病変、平坦/陥凹性病変、癌病変、潰瘍（瘢痕）、治療時間>60分、ヒスタミン H2 受容体拮抗薬服用が挙げられています。さらに最近では、胃癌患者の高齢化により ESD 患者における抗血栓薬の使用頻度が増加しています。しかしながら、出血リスクは抗血栓薬の他にも上記のような様々な要素から成るにもかかわらず、これらのリスクを層別化するようなシステムは報告されていないのが現状です。そこで、本研究では多施設共同研究にて早期胃癌 ESD 後の出血関連因子を同定し、ESD 直後までに得られる情報に基づいた早期胃癌 ESD 後出血リスクを層別化するスコアリングシステムを開発することを目的としています。研究期間は倫理委員会承認後～2021年3月です。

診療記録を閲覧しながら、患者様の個人情報排除して、病歴、内服されている薬の種類、検査所見、治療内容、臨床経過などの医学情報の解析を実施し、出血関連因子の同定から早期胃癌 ESD 後出血リスクスコアリングシステムを作成します。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

2013年11月～2016年10月の間に早期胃癌に対して ESD が施行された患者（全体 5000名、当院 300名）のカルテ情報（年齢、性別、基礎疾患、内服薬の状況、内視鏡治療後の病理組織結果（情報のみ）等）

### 4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当院の個人情報管理者が保管・管理します。

## 5. 研究組織

斗南病院（住吉徹哉）、国立病院機構函館病院（間部克裕）、弘前大学医学部附属病院（三上達也）、東北大学病院（小池智幸）、福島県立医科大学附属病院（引地拓人）、筑波大学附属病院（溝上裕士）、群馬大学医学部附属病院（浦岡俊夫）、千葉大学医学部附属病院（中川倫夫）、東京大学（藤城光弘、辻陽介）、国立がん研究センター中央病院（小田一郎）、東京慈恵会医科大学附属病院（炭山和毅）、順天堂大学医学部附属順天堂医院（上山浩也）、国立国際医療研究センター国府台病院（矢田智之）、虎の門病院（布袋屋修）、がん研有明病院（由雄敏之）、静岡県立静岡がんセンター（角嶋直美）、石川県立中央病院（土山寿志）、金沢大学附属病院（北村和哉）、福井県立病院（波佐谷兼慶）、滋賀医科大学（杉本光繁）、大阪大学大学院医学系研究科（竹原徹郎）、大阪市立大学大学院医学系研究科（永見康明）、市立豊中病院（西田勉）、大阪市立総合医療センター（根引浩子）、大阪急性期・総合医療センター（井上拓也）、和歌山県立医科大学（井口幹崇）、神戸大学医学部附属病院（森田圭紀）、山口大学医学部附属病院（西川潤）、周東総合病院（清時秀）、愛媛大学医学部附属病院（富田英臣）、愛媛県立中央病院（壺内栄治）、長崎大学（大仁田賢）

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：

地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター  
消化器内科 部長 根引浩子

研究代表者：

東北大学病院消化器内科 小池 智幸